



花が咲き 笑顔があふれ 歌声が流れる学校

岩沼北中学校 学校だより第25号

令和4年3月11日 文責 教頭

学校 HP で「学校ブログ」毎日やってます!

岩沼北中学校

検索



巣立ちのとき ~自分の中の太陽を信じて大きく羽ばたけ!~

3月8日(火)、晴れやかな空のもと、第60回卒業式を挙行了いたしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容や方法を一部変更・縮小しての実施でしたが、卒業生一人一人に卒業証書を手渡しすることができました。

校長からは、島崎藤村の「太陽の言葉」の一節を交えた式辞がありました。一部を紹介します。

「人生100年時代において、今は15歳。1日に例えれば、まだ夜明け前です。これからは明るい太陽が昇ってくる時期になります。太陽は自分の中に昇ってきます。自分自身の太陽のエネルギーを信じて、人生という長い旅路を歩いてください。すてきな旅路となるように祈っています。」

卒業生を代表して さんが別れのことばを読み上げ、そして、卒業生85名が中学校を巣立っていきました。1・2年生の皆さんは、卒業式に立ち会うことができませんでしたので、「別れのことば」を掲載します。卒業生の思いや在校生へのメッセージをしっかりと受け止めてください。

誰でも太陽であり得る。

私たちの急務はただただ目の前の太陽を追ひかけるのではなくて、自分等の内部に高く太陽を掲げることだ。

島崎藤村『春を待ちつ』「太陽の言葉」より



卒業式の当日に、PTAの役員さんがサプライズを用意してくださいました。早朝から、木造校舎との渡り廊下に華やかな飾り付けをしてくださいました。そして、式の終了後には、岩沼係長を北中に連れてきてくださいました。特設のフォトブースも用意していただいたので、皆さん、係長とツーショットや友達と、親子で、保護者同士でと、たくさん記念撮影を行っていました。思い出に残る卒業式になったのではないのでしょうか。

PTA役員の皆さん、岩沼係長、本当にありがとうございました。



東日本大震災から11年

平成23年(2011年)3月11日(金)14時46分、東北地方太平洋沖地震(M9.0)が発生しました。この地震と津波に伴う一連の災害を「東日本大震災」と呼びます。あれから11年の月日がたちます。学校では、防災学習を通じて、この大震災のことやどのように身を守るのかについて学習しています。本日は、地震発生時刻に黙祷を捧げました。

1・2年生は、当時2~3歳で、震災を体験はしているものの、はっきりとした記憶はあまりないかもしれません。ご家庭で震災について語り継ぎ、命を守る行動について話し合う機会にしていただければと思います。

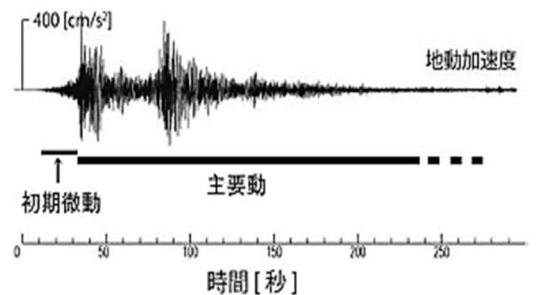


図3-18 石巻での2011年東北太平洋沖地震の強震計(加速度)記録(東京大学地震研究所ウェブサイトより)。約20秒の初期微動ののち、強い地震波が2回到来し、主要動は3分以上の長時間つづいた。

※地学団体研究会仙台支部編(2021)

「気分は宝さがし! せんだい地学ハイキング Ver.2」より抜粋

別れのことは

暖かい陽の光が窓から降り注ぎ、春の兆しを感じる季節となりました。私たち三学年八十五名は、お世話になった方々、そして新たな季節に見守られながら、今日、こうして卒業の日を迎えることができました。

本日は、このような素晴らしい式を挙行していただけることに、卒業生一同、心から感謝申し上げます。

振り返ると、三年という時間は瞬く間に過ぎていきました。学級・学年の仲間と過ごした何気ない日々も、今は、かけがえのない時間に思えます。過ぎ去った日々が短く感じられるのは、毎日の学校生活が、それだけ充実していた証だと思います。

三年前の春、真新しい制服に照れながらも、少し大人になれた気がした入学式。その日から、期待と不安を胸に、中学校生活をスタートさせました。初めは、分からないことだらけでしたが、先生方、先輩方、多くの皆様の支えがあり、少しずつ成長することができました。

二年生。憧れの存在になれるという喜びとともに、先輩としての立場を意識するようになりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていた行事は縮小、形を変えて行うことになりました。先生方や後輩たちに、成長した姿、格好良い姿を見せようと思っていました。その姿を見せることはなかなか叶いませんでした。

今年こそは、最高学年として北中を盛り上げようと意気込んでいた合唱コンクール。最高の思い出をつくるために楽しみにしていた修学旅行。どの行事も、新型コロナウイルスの大きな影響を受けました。しかし、先生方や多くの皆さまのご尽力により、形を変えて実現することができました。難しい状況に置かれた時、「どうすれば可能か」と様々な工夫を重ね、実現できる形を模索されている先生方の姿には、学ぶべきことがたくさんありました。

松島への修学旅行。関東方面から松島への変更が決まった時には、皆、落胆しているように感じました。仕方のないことと分かっているにしても、期待が大きかった分、最初は、やるせない気持ちになりました。しかし、普段とは違う場所で、違う活動を行ううちに、友と過ごす時間にただただ夢中になっていました。松島湾クルーズでは、船の上でみんなではしゃぎ、大きな海に浮かぶ島々の姿に魅了されました。円通院では、庭園の美しさに感動するとともに、歴史や文化を学ぶことができました。どんな状況でも、一緒にいれば笑顔になれる仲間がいるということのありがたさに気づくことができました。「どこに行くか」ではなく「誰と行くか」が大切だと言われていた先輩方の言葉の意味を、理解することができました。

また、合唱コンクールは、形を変えて行いました。限られた時間の中でも、自分たちが立派になった姿を見せようと、必死になって練習しました。ソプラノ、アルト、テノール、伴奏、指揮。全てが重なった合唱は、最高学年としての自信や誇りを表現することができたと思います。一つのことを、クラスの皆と一生懸命に取り組めたことは、大切な思い出になりました。このような

経験ができたのは、紛れもなく先生方や多くの皆様の支えがあったからこそであると身にしみて感じています。

そして、私たちの側には、いつも支えてくれるかけがえのない存在がありました。

先生方。私たちはこの三年間で成長することはできたでしょうか。私たちは、先生方からのご指導をいただき、多くの知識、経験を得ることができました。困っている時、問題を抱えている時には、一緒に悩んでくださり、私たちが自分の手で解決できるよう的確なアドバイスを与えてくださいました。三年間、先生方ほど迷惑をかけ、どれほど救われ、どれほど頑張ろうという気持ちにさせられたか。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。教えていただいたことを胸に刻み、しっかりと前に進んでいきます。

最も近くで支えてくれた一番の理解者である家族。思春期の私たちは、私たちのことを思ってくれてくれる言葉も、なかなか受け入れることができませんでした。ごめんなさい。それでも、その言葉一つ一つの温かさが不安を消してくれました。普段は照れくさくて言えないけれど、心の中では、何度も感謝をしています。ありがとうございます。私たちはいつか自立の道を歩みますが、それまで、もう少し力を貸してください。

在校生の皆さん。私たちは、新型コロナウイルスの影響により、制限された生活を余儀なくされました。しかし、その中で、今までの当たり前前の生活が、どれほど恵まれたものであったかに気づかされました。友達といつもものあいさつをする。何気ない話をして笑い合う。同じ場所でもともに学ぶ。話し合い、どうするかを考える。本気で試合をして汗をかく。美味しい給食を食べる。毎日掃除をする。こうした日常が送れるということは、とても幸せなことです。だからこそ、当たり前前にある日々、常に感謝することが必要です。逆境に見舞われても、そこから逃げず、失敗を恐れず、今ある状況を楽しみ、有意義なものにしてください。そして、常に感謝の気持ちを忘れず、多くの方に応援していただける北中を目指して努力していきましょう。

三年生の皆さん。こうしている間にも別れの時が刻一刻と近づいています。いつまでも他愛のない話をして笑い合っていたいです。必死になって勉強した時間も、行事に向けて団結した時間も、笑い合った時間も、些細なことでもけんかをした時間も、悔しくて泣いた時間も、皆さんと過ごした時間は、全て宝物です。今後、苦しく、辛いことに見舞われるときが来るかもしれません。そのときは、この三年間で得たことを思い出し、乗り越えましょう。これから進む道はそれぞれ違いますが、また、笑い合える日まで、前を向いて一歩ずつ歩んでいきましょう。

最後になりましたが、私たちが支え、導いてくださった全ての方々に心から感謝を申し上げますとともに、岩沼北中学校のますますのご発展を祈念して別れの言葉といたします。

令和四年三月八日

第六十回卒業生代表